

1954: サイディ・パターソン 斧を埋めるか、死体を埋めるか

北アイルランドの労働組合統括者であるサイディ・パターソンは、1954年にコーで開催された会議で講演し、MRAが彼女の闘志を弱めていないことを熱心に説明しました。MRAは人を軟弱にするものだと思います、私は長い間、MRAに反対してきました。「でも信じてほしい、皆さん、人を愛することは、その人を憎むことよりもずっと難しいことが分かりました」。

サイディは、医者への治療費が払えず母親が出産中に亡くなった後、14歳で一家の大黒柱となり7人の兄弟と病弱な継父の世話をしました。リネン工場で働くようになった彼女は、1940年、女性従業員の完全な組合加入を求めてストライキを起こしました。コーでのスピーチの2年後、彼女は女性初の北アイルランド労働党議長となりました。

彼女はコーで聴衆に、労働組合や労働運動を通じて約9万人の女性と直接接触してきたと話しました。そして、アイルランド出身の彼女はコーの会議で経験したことを語りました。「先日、ある人に言われたことがとても腹立たしいものでした。イギリス人は時々、正しいことを言う癖があるのですが、間違ったタイミングで言うのです！彼は耳を切り落とされなくてよかったわ！」。

しばらくして、彼女は自分の言動を詫言いました。コーを去った後、英国内閣の人々に会う予定があったからです。「ここで謝ることができなかったら、その人たちのために答えを持って行くことはできませんでした。」

またある時、彼女は会議場でお茶の時間に、戦時中の北アイルランドにおけるアメリカ人の振る舞いについて話しました。アメリカ人を批判していたら、一緒にお茶を飲んでいて4人の女性が全てアメリカ人だと分ったのです！そして、彼女たちの祖父母はみんなアイルランドから来たのだと話し始めました。つまり、彼らはアイルランドから輸出されただけだったのです！その教訓は忘れられません。

サイディは最近労働党の会議で、ドイツとドイツ人に対する憎しみに衝撃を受けたと話していました。彼女は、1950年にMRAに誘われてドイツに行ったときのことを話しました。私は行きたくなかったのです。「私の家庭はドイツに破壊されました。甥が21歳の誕生日に殺され、私は心の中ですごい憤りを感じていましたが、友人たちは憤りでは新しいドイツは築けないと言いました。ドイツにいたとき、私のような立場の女性にたくさん出会いました。ある女性は労働組合の信念のために強制収容所に入れられ、彼女の2人の息子はイギリス人に殺されました」。私は会議でその話をし、彼女たちにこう言いました。「あなた達には銃ではなくアイデアが必要なのです」。

1973年に組合の仕事を引退した後、サイディは『ウィメン・トゥギャザー』の会長となり、自国のプロテスタントとカトリックの分裂を正常化するために活動しました。「『オレンジ色の涙』や『緑色の涙』(2つの共同体の色)などというものはありません。私達は皆一緒なのです。斧を埋めるか、死体を埋めるか、私たちはどちらを選ぶかを決めなければなりません』。

コーでのスピーチの前年、サイディはエリザベス女王から勲章を授与されました。女王は彼女に、女性たちの状況はどうかと尋ね、サイディはこう答えました。「一時は両手のように離れていましたが、今彼女たちはあなたのような高貴な一つの魂なのです」と答えました。



Saidie Patterson planting a memorial Peace Cross for her great-nephew, Belfast 1979 (photo: Bleakley Collection)



Sadie Patterson(second right) with Kim Beazley (second from left. see 1973 story) ,British Labour politicians James Haworth (left) and John McGovern (right) at Caux